

## 診療所だより

### 子牛の健康診断

繁殖農家の方々が、日頃の飼養管理の中で頭を悩ますのが母牛の種付、妊娠と子牛の下痢症ではないでしょうか。

#### 健康診断のポイント

子牛の病気を早期発見するためには、

- ①糞の状態
- ②鼻の湿り具合
- ③食欲

(生後一ヶ月齢までは乳を飲んでいくかどうか)

④被毛の光沢  
などをつねに観察していることが大切です。

表①は平成15年度NOSAI北部の胎児、出生子牛の病気を分類したものです。

最も多いのが消化器病で67%、次に寄生虫病で、これも下痢の症状を示します。合わせると87%を占めています。

表①

#### 平成15年度病傷事故(胎児・出生子牛)

1. 消化器病	3,997頭	67.0%
2. 寄生虫病	1,239頭	20.8%
3. 呼吸器病	322頭	5.4%
4. 新生児異常	168頭	2.8%
5. 皮膚病	79頭	1.3%
6. 外傷不慮	47頭	0.8%
7. その他	105頭	1.8%

表②

#### 消化器病内訳

1. 腸炎	3,803頭	95.1%
2. 胃腸炎	108頭	2.7%
3. その他	86頭	2.2%

表②に消化器病内訳を示していますが、ほとんどが腸炎です。腸炎も大別すると2つに分類できます。  
1つは悪臭で白い下利便をする白痢ともう1つは、黒い泥状又は血便をするコクシジウム症です。

### 新生児白痢

早いものは生後1〜2日で発症し、便が白くなるか、ひどい場合は水様便になります。母牛の乳量が多いと子牛は飲み過ぎて消化不良を起こします。和牛では母乳中の乳脂肪分が高い傾向にあり、子牛は脂肪分の消化が充分にできないので、白痢になってしまう場合が多いようです。分娩後は母乳の乳質を考慮し濃厚飼料を多給しないなど高力口リーにならないように注意しましょう。

又、母乳以外に細菌やウイルスなどが原因する場合もあります。分娩前は分娩舎を消毒し衛生に心がけましょう。



発育良好な子牛

### コクシジウム症

多頭飼育して、群飼すると必ずといってよいほど発生する。これはコクシジウムという原虫が、子牛の腸に寄生するために起こるもので、多くは60日齢前後に発病する。はじめは泥状の便からひどくなると血便をするようになります。

写真①、②のように子牛が下痢になって治療すると、予防によって下痢を防止するのでは、子牛の成長に大きな違いが生じてきます。

獣医さんとよく相談して丈夫な子牛を育ててください。

(井上獣医)



発育不良な子牛